



和光の緑と湧き水だより 会報 Verda 227号

2023年10月15日

「湧き水環境フォーラム in 和光」

主催 NPO 法人 和光・緑と湧き水の会 協力 白子大坂ふれあいの森の会

後援 和光市、和光市教育委員会、和光市環境づくり市民会議、NPO 自然観察指導員埼玉

代表理事 高橋絹世

フォーラムの主旨

和光の魅力を発見し、恵まれた湧き水環境を皆さんと一緒に学び、活かし、残していく方策を考えよう

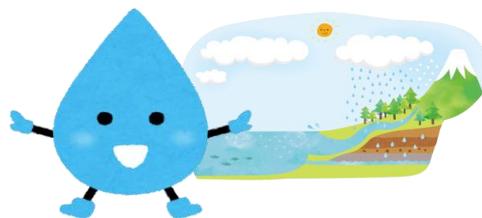
第1部 白子湧水群観察会

当日朝から雨、霧雨模様の中見学会を大坂ふれあいの森と富澤湧水の2か所を2班に分けて案内しました。それぞれ到着したころには雨がやみ、傘を閉じて観察会が出来ました。

富澤の湧き水が湧き出す仕組みが観察できる斜面では、礫層と粘土層がはっきり分かれ、湧き水がぽたぽたと出ている様子の説明を聞きながら見学し皆さん納得。



ぼくのゆめはわき水になること



新作紙芝居と絵本の紹介もしました



石垣湧水道では、サワガニがはい出している所や、湧き水を水道にして使っていた様子を紹介。斜面上部に上がって見た方は、和光にこんなところがあるとは！と驚いていました。和光市の秘境の趣があります。



大坂ふれあいの森では、急な斜面には大きなムクノキが板のような根を張って斜面を守っていること、森の奥には関東ローム層が観察でき、中ほどの「箱根の大噴火でできた地層：東京軽石層」と言われている

地層を観察し、約6万年前にタイムスリップしたかのようでした。和光の湧き水めぐりは小さなジオパークめぐりでもあり、残していききたい所です。地下水位が見える井戸もあります。



熊野神社に全員合流し、歴史に詳しい沖野氏の説明がありました。

江戸時代の神社の絵図を使って、当時と現代の様子の違いや、かつては江戸から一日かけて清らかな水に恵まれた白子へ旅を楽しんだところだったと説明されました。

第2部 湧き水環境フォーラム in 和光

さていよいよ第2部「湧き水環境フォーラム in 和光」の始まりです。会場は満席です。フォーラム開催にあたりご臨席の富沢啓二市議会議員からご挨拶をしていただきました。



富沢啓二市議会議員

講演者は日本地下水学会の理事吉田広人氏。スライドを使用して講義が始まりました。地球上の命の水、淡水は水全体の数パーセントしかない



日本地下水学会 吉田広人氏の講演

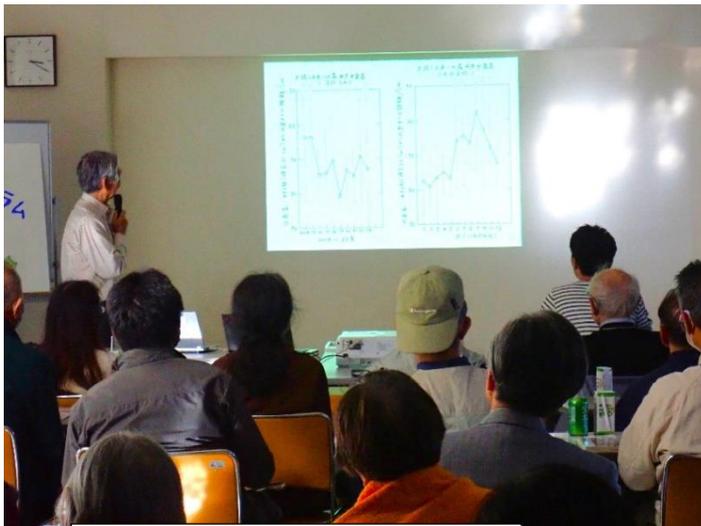
フォーラム会場白子コミセン視聴覚室の様子



い貴重なもの。地面の中には水がありこの水を地下水と呼ぶ。地下水は速い所で1日1メートルとゆっくり流れる。雨水が地中にしみこみ、地中できれいになり、地下水が地表に顔を出し湧き水となる。外気の気温変化に影響されず水温は年間通して一定。地下水は直接目には見えない。地下水の起源と流れが判れば利用の仕方や保全がしやすい。水の循環という視点で見ると

とが大事。水循環を考えるうえで、地下に広くある地下水盆（地下水の入れ物）を把握することが大切。関東平野では地下水盆を作る器の岩盤は約3500mと大変深い。この岩盤の上に砂、泥、礫が何重にも重なっている。武蔵野台地の地下構造の図は、地表から地下に何層もあることが紹介された。地形的な特徴として扇状地の地形で、湧水が多いのが特徴。その末端部に位置する和光市、湧き出す湧き水は、分類すると崖線タイプと谷頭タイプが存在し、冨澤湧水は崖線タイプ、大坂ふれあいの森は谷頭タイプ。白子の湧水群に2つのタイプが存在する。この湧き水環境を大切に。

和光の現状は都市化が進み、地下水が少なくなっている。雨水浸透枡の利用を進める必要があり、行政と市民に事業者も加わり地下水を守る政策が重要である、との講演でした。



湧き水の会理事 高橋勝緒の報告

次に湧き水の会の理事高橋勝緒が、湧き水の会の活動や成果、調査で得られた結果と報告書、現在保全をしている地域冨澤湧水、新倉ふれあいの森、大坂ふれあいの森など、身近な自然を知り、守り、活かす活動を紹介しました。

その後当会の新作である「ぼくの夢は湧き水になること」という紙芝居を紹介。出来上がった絵本を見てもらいました。

最後の意見交換は赤松祐造氏が司会

進行。初めに都市整備部次長高橋琢磨氏から、大坂ふれあいの森の公有地となることが決定し、大坂ふれあいの森は、特別緑地保全地区の指定を受けることについてお話されました。このフォーラムも、公有地化が進んだことを伝えることとして企画しました。冨澤議長から市議会議員全員の賛成での決定との報告をいただきました。

公有地化については、湧き水の会は白子大坂ふれあいの森の会と共に約20年間保全に注力し、要望してきました。活動が実り有難いことです。冨澤湧水が白子宿特別緑地保全地区に指定されたのは2015年です。このフォーラムによって、タイプの異なる湧水が冨澤と、大坂ふれあいの森にあり、どちらも特別緑地保全地区として、豊かな生態系と共に、地域の地形、地質を知るジオパークとして、ぜひ残していきたいところです。



意見交換会 峯岸正雄氏の発言

環境づくり市民会議議長の峯岸さんからは、長い間希望してきたこの公有地化の要望が果たされたこと、などの発表がありました。その他、白子の宿場としての看板設置や紙芝居と絵本の利用を広げる重要性などが意見として述べられました。

このフォーラムには、県内外の参加、多くの和光市民が集まり総勢約 60 名、コミセン視聴覚室を有効に活用でき、盛況なうちに閉会。新作絵本も早速広まりました。

今回のフォーラムはコロナ後久しぶりの開催で、地質、地下水、その保全の仕方、等々講演をとおして学ぶことが出来ました。湧き水の会の活動とつながり、会の活動を広く知ってもらう機会となり、参加者の皆さんが和光の湧き水の重要性を認識し、発展に繋がる有意義な環境フォーラムとなりました。

多くの方々ご参加有難うございました。



参加者全員集合 熊野神社の絵図が書かれたあたりで

緑と湧き水が溢れる富澤湧水（左）と大坂ふれあいの森（右）

